

保険で製作するパーシャルデンチャーとは？

前北海道大学歯科センター診療教授 野谷健治

我が国では高齢化が進み、4人に一人が高齢者になっていることは周知である。確かに歯の喪失は若年層を中心に減少傾向を示しているが、高齢者では少なくない欠損が存在しているのも事実である。また、歯科医院を訪れる各年齢別受診率をみると2008年ですでに60歳から急増し、70～74歳でピークと示している。

欠損の修復法の1つにインプラント補綴があるが、今や再評価の時期としても過言ではなく、すでに米国ではインプラント症例数の停滞あるいは減少した、と報告されている。

このように背景から、今後20年位は来院患者で有床歯の占める割合が増加することは必至である。しかるに、パーシャルデンチャーは患者や歯科医師、歯科技工士にとってはやっかいで難しいと捉えられ、保険診療では困難との見解が少なくないように思われる。

そこで今回、患者が満足するパーシャルデンチャーは保険診療下でどこまでできるか、すべきかについて臨床医の立場から述べ、技工士の皆様と意見交換してみたい。